

すばる

白岡市立南中学校
校長室通信
平成27年4月14日

No.3



ルールの意味



世間では印象として「学校のルールは特別である」というイメージがあるのではないかなと思う。かつてテレビなどで「変な校則」として一世を風靡？したことも、心理的に影響を与えているかもしれない。実際に指導に関わってみるとわかることだが、世間的に変だといわれる校則にも、たいていはきちんとした理由がある。例えば、トイレトペーパーの使用の長さとか、女子のスカートの膝丈だとか、大人がおもしろがって決めるはずはなく、何か理由があって決めたものだと思像できる。トイレトペーパーの使用の長さは、大量に使うか、いたずらで使ってしまった、困っていることが背景だと容易に想像できる。だが、マスメディア等は「長さ」だけを話題として「切り取る」から前後の脈絡がわからなくなり変だと思われる結果になるわけだ。

先日、大学生の娘が妙なことを言った。「お父さん、中学生は自分を大人だと思っているから、『理由』をきちんと説明してあげないといけないよ」なるほどな、確かにそうだった。先日の集会で学校のルールの確認をした。そういえば、担当の先生がその説明の中で、「人として」とか「集団の中では」といった考え方を話し、なぜそうなっているのかを考えさせるようにしていた。これはとても大事なことだと思う。お金を持ってきてはいけない、集金日には一番に提出するというのは、なくなったら他の人を疑わなければいけなくなるから、というように。人の傘を勝手に使うことがいけないのは、当たり前だが（ルールでもなんでもない）、人として恥ずかしいのだと語気を強めて説明してくれていた。

学校のルールは基本的に「集団生活」（≡社会生活）の中で、指導としては体験的に「考え方」を身につけさせる手法をとる。集団生活においては、個人の自由は他の自由とぶつかるものだし、ある人の権利は他の人の権利を侵害することもあるものだ。自由や権利を主張することは大事だが、それだけではないことを知らなければならない。学校で定めるルールには世間一般からみると、多少不思議で、なかなか説明が難しいものがあったりするだろう。例えば、ジャージを着崩してはいけない理由は難しいが、「ジャージは制服である」という説明はお見事！髪型も個人のレベルではさほど問題にならない（女子が頭頂で結んでも「個人では、好みの問題」）が、多くの思春期の生徒が生活する「場」になると、ある程度の制限が加わるものなのである。このとき本人や保護者の考え方と一致しないことは十分考えられる。親御さんには、その子以外にもたくさんの思春期の生徒と一緒に生活しているという視点がないからである。

だから、娘の言うように（苦笑）、生徒に対して、「大人として説明する」ことが重要なのではないだろうか。生徒たちが社会に出たときに様々な場面でその社会におけるルールが存在する。それにきちんと対応してやっていけるだけの考え方や汎用性の高い判断力を学校生活の様々な場面で体験させていくことが大事だからである。これはとても手のかかることだ。が、教育というのはそういうものなのだから、粘り強くやっていくしかない。



忘れ物を
しないように

